

故郷の岐阜には毎年、数回帰省する生活を長く送ってきましたが、いつも心の拠り所として故郷は、私の中に存在してきました。

濃尾平野に緑り出される綺麗で豊富な水量の木曾川、長良川、揖斐川、中でも私の故郷、岐阜の中心部を透き通る美しさで縦断する長良川やそこに注ぎ込む数多くの支流などは、流域の多くの人々の生活に深く関わってきました。

流域の水のおいしさは世界に自慢が出来ますし、味わいがありますし、川面を見ているだけで見られる鮎や小魚の銀鱗には今は感動すら覚えます、また流域でのおいしく豊富な果物も自慢です。

そして私の心の安らぎは、場所によって、季節によって、時間によって本当に美しく見える自慢の山々の遠望風景見ることです。伊吹山、白山、乗鞍岳、御嶽、恵那山などいつまでも眺めていても飽きませんし、それぞれに立派な郷土文化があります。学生時代に、山歩きや溪流のぼりや、多少の岩登りや冬山登山を経験してきただけに、人一倍の愛着があるのかもしれませんが、こんな素晴らしい風景は世界広し、と言えども数少ないと思っています。

そうした素晴らしい環境が多くの人々の努力によって維持され、この度、「清流長良川の鮎」が世界農業遺産の認定に繋がったのだと思い、とても嬉しくなりました。また、近景では長良

川畔から見上げる金華山や、そこから見下ろす濃尾平野、そして合戦の要衝、関ヶ原などの日本の歴史を揺り動かした舞台など、過去、現在そして未来へ思いを馳せられる場所も誇りです。

特に岐阜を離れて、日本各地や世界各国で活躍している人たちにも自慢の長良川であり、そこで育まれた多くの自然、文化、歴史、産業遺産などに加えて、FC岐阜のような新しいスポーツ文化も含めて流域観光資源として発信できれば、これからの更なる発展に繋がると確信しています。

このたくさんの岐阜の持つ魅力と感動、そして現代の産業やスポーツ交流の現状などを一つだけでなく、総合的に日本や世界の人たちにどう連携して、伝えられるかが、今後の更なる岐阜の発展の原動力になると思っています。

そこにJリーグがこの度ロンドン本社のパフォーマンス社とNTTと契約したことにより、今後各スタジアムでインターネットベースで幅広い情報を自由に見ることが出来るようになります。

スポーツがあらゆるビジネスとも世界とも繋がって行くことになり、岐阜のたくさんの素晴らしい魅力を求めて、世界中からもっと多くの人々が来て賑わうようになります。

FC岐阜を岐阜の魅力の発信源になれるよう、頑張っていくます。

PICK UP!

今月の選手インタビュー DF30 田代雅也 選手



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

1.初めてのプロ生活も半年終わりましたが、ここまでいかがですか？

初めに怪我をしてしまったけど、プロ生活して2・3年経って大きな怪我をするよりも早いタイミングでこういった経験が出来たことは自分自身にとってプラスに働いていると思います。試合に出ている中で怪我をして、外からチームを見ることができ、それを今の自分のプレーに生かしているの、良い期間を過ごせたなと思っています。

2.大きな怪我(左頬骨骨折、左眼窩壁骨折)をして、焦りはなかったですか？

特になかったですね。逆にこの期間をどう過ごすべきか、ということを考えながら過ごしていました。常に思っていることですが、下向いていてもしょがないので、負けが続いたり、なかなか勝てない試

合が多い時でも、反省はしますが、そこで落ち込む必要はないと僕は思っています。

3.今後の目標は？

前半戦は怪我で出られない試合が多かったので、後半戦はこのまま試合に出続けることと、もっと中心的な選手になっていき、試合の結果で示される選手になります。

将来は、僕がいるチームが、相手チームの選手から、田代選手がいるから嫌だなというイメージを持たれるような選手になりたいなと思います。

4.最後に皆様にメッセージを！

厳しい試合が続いていますが、チームは一丸となって勝利を掴み取れるように毎試合全力を注いでいきます。ぜひそのあと押しをしていただくためにも、スタジアムに足を運んでください。よろしくお願いします。